

戦争は絶対に良くない

土田 宏（昭和 19 年生まれ）

自分は、昭和 19 年 2 月にこの世に生を受けたものです。したがって、戦争に直接参加していませんが、その影響をもろに受けたものとして体験を書かせて貰います。

親父は、自分が 6 か月を迎えたところに召集されて現在の韓国で過ごしたということを知りました。父も母も、もうこの世にいませんので今になってみればもっと状況を聞いておくのだったというように思いますがそれは無理ですので自分の話に戻ります。

親父が出征するころには、もう這い出して兄たちよりも元気いっぱいの子ちゃんだったそうですが、なんと親父が帰省したという 21 年春にはまだ立って歩くことのできない状態だったということです。栄養失調という病気が原因です。このことが自分の生涯で多大な影響を与えました。

父にも母にも責任はありません。戦争が良くないのです。銃後の母にとって、乳飲み子の自分と幼い兄 2 人を抱えてどうやって育ててくれたものが、こんな状態ですから自分の幼児期の写真は一枚もありません。小学校へ入学したときの集合写真が一番古い記録です。入学時の身長 102 センチ、体重 17.8 キログラムというのですからいかに小さい子供だったかわかるでしょう。学校へ行くようになってもしょっちゅう風邪をひいて、休んでばかりいたようです。

1 年生のときの惨めな記憶があります。片道 1.5 キロメートルくらいの遠足で、途中で歩けなくなって用務員のおばさんに背負って貰って学校へ戻ったというのがあります。これでは子供心にも、われながら情けないなあと思うのは当然です。元気な同級生は鼻の下に 2 本のレールを引ながら走り回っていましたからね。

もうひとつ、ランドセルがお下がりのお下がりですからわずか 3 か月で壊れてしまって、親父の戦争土産というか、ぼろの背嚢をかばん代わりに勉強道具を入れて通ったのです。小さい体ですのお尻の下まであってとても歩きにくかったものです。

中学生になったときに近所のおばさんがしみじみとっていました。土田の家の三男坊はまず成人を迎えずにあの世へ行くだろうと思っていたと。

そして、クラスで整列するといつも一番前でした。成績で一番というのはとても自慢ができるものでしょうけど、身体能力が一段と劣っており、なおかつ積極性もまるでなかった自分にとって体操や遊戯をするときには前の人の動きを参考にできなくて、本当にどうしていいかわからず困った記憶があります。みじめ！

そして食べ物です。とにかくないのです。戦争がよくないのです。時々ニュースで流れるアメリカや北朝鮮の子供のやせている映像を見てください。あれが、思い出したくないけれど当時の状況です。今の時代の飽食という言葉は本当に情けないというか、もったいないというか、憤りを感じます。食べる分だけ調理しなさいと。何でもまだ食べられるのに捨ててしまうのでしょうか。衛生管理もあるでしょう。雪印でも不二家でも、そんな経営者がやっていたのではと一寸同情もします。

このあとは家です。茅葺^{かやぶき}屋根にぺんぺん草^はの生えている粗末なものでした。生活で一杯です。手入れするなんてできません。戦争が良くないのです。ある冬の日、隣の家の屋根のユキが滑り落ちて、兄弟3人の寝ていたせんべい布団の枕元にあって、眼がさめたことを覚えています。

暖房なんてまるでありません。ちよろちよろの炭火^{すみび}のコタツだけが唯一の暖房でした。このコタツの中で、当時我が物顔で走り回っていたねずみを退治するために飼っていた猫が^{いっさんかちゅうどく}一酸化中毒で死んだこともありました。うんと寒いときは、そうですコタツを中心にして足を入れて寝るのですが、布団が燃えて母にたたき起こされたことがありました。猫と同じ運命になっていたとしても不思議ではありません。

それが、朝鮮戦争^{ちようせん}特需で日本の景気がよくなりました。韓国と北朝鮮の悲劇を足場にしたことは良くないのです。

このあと中学生になり自分なりに身体を鍛^{きた}えてから何とか人並みになってきたように思います。でも、身長は伸びませんでした。兄は178センチという堂々たる身体です。もう少し背が高ければ人生は変わったでしょうに。

でも、最後には思います。これでよかったのでしょうか。他人の苦勞は分かりますから。もう一度いいます、戦争は絶対に良くないのです。